

新型コロナウイルス 感染症の拡大 影響と対策

東京2020大会の1年間延期

延期、中止となった主要な事業

東京2020大会における感染拡大防止策

急速に全世界で流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会開催が2020年から2021年へと1年間延期とされ、それに伴い様々な事業が延期、中止となりました。

2021年に延期となった東京2020が安心・安全に開催できるよう、徹底した感染症対策の構築と、その中での事業の実施を検討してきました。

東京2020大会の1年間延期

東京2020大会開催に向けて準備が進む中、2019年末頃から一部地域で流行していた新型コロナウイルス感染症が、前例のない感染力で急速に広がり、世界的流行(パンデミック)となりました。

各競技の出場選手の選考や、海外からの訪日外国人の受け入れ等の準備が進められていましたが、オリンピックの象徴である聖火リレーが福島県からスタートする直前の2020年3月24日、国際オリンピック委員会、日本国政府、東京都、組織委員会が協議し、選手等大会に関わる全ての人の命と健康を守るため、東京2020大会を1年間延期することを決定しました。



史上初、オリンピック・パラリンピック1年間延期を報じた新聞記事(毎日新聞社提供)

延期決定直後の3月30日に、国際オリンピック委員会から東京2020大会の新たな開催日程が発表されました。世界各地では感染拡大を防止するため、都市封鎖(ロックダウン)などの対策がされ、開催国の日本では4月に最初の緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出禁止や店舗の営業自粛、イベントの規模縮小や延期・中止など、感染症拡大防止の取組みが第一優先とされました。

史上初の開催延期となりましたが、世田谷区は大会に向けた気運を維持、向上させるため、事業のオンライン化や、感染症拡大防止策を徹底した上でのイベント開催など、新型コロナウイルス感染症の状況を判断しながら、計画、試行をしていきました。

2021年に入り、新たな日程の東京2020大会に向け準備が進められてきましたが、感染症が収束していなかったため、3月には海外観客の日本への受け入れを断念し、その後、ほぼ全ての競技の無観客開催が決定されました。また、福島県からスタートしたオリンピック聖火リレーは、一般観覧を控えてもらうなどの感染拡大防止策をとりながら行われましたが、東京都など緊急事態宣言が発令されている都市では、公道での走行が中止となり、無観客での点火セレモニーなどの代替事業が実施されました。

大会開催の1年間延期に伴い延期していた大会関連事業も、さらなる延期や中止、オンライン開催などへの代替事業化を余儀なくされましたが、東京2020大会を安全に開催し、成功させるため、徹底した感染症拡大防止策を講じ、取り組んでいきました。



延期、中止となった主要な事業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止、またそれに伴う無観客での競技開催により、大会直前から期間中にかけて実施を予定していた取組みが延期、中止となりました。

東京2020大会100日前イベントin SETAGAYA

東京2020大会に向けたカウントダウンイベントの締めくくりとして、大会開催100日前に合わせ、馬術やフェンシング、BMXなどの体験やトークステージの実施を2020年4月に企画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による大会開催1年間延期に伴い、中止となりました。また、大会延期後、再び大会開催100日前に、聖火リレー、馬術、アメリカ合衆国選手団キャンプ、パラスポーツをテーマにした体験やトークステージの実施を、日程と会場を分け、3会場3日間予定していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となりました。

馬事公苑界わいクリーンタウン大作戦

世界中から集まる多くの馬術競技ファンをきれいな“うままち世田谷”で迎え入れようと、町会・商店街・学校などと連携したまちの美化活動を企画しましたが、緊急事態宣言を受け延期となりました。

アメリカ合衆国選手団キャンプ見学ツアー

アメリカ合衆国のオリンピック選手団キャンプ期間中に、1日2回、指定されたルートで施設内(大蔵総合運動場)を見学するツアーの実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となりました。

東京2020大会コミュニティライブサイト

コミュニティライブサイトは、競技中継や競技体験、ステージイベントなど、大会の雰囲気を感じることができる事業で、世田谷区では、馬術競技会場の馬事公苑近隣など区内5地域計9か所で、延べ41日間開催を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による大会開催1年間延期に伴い、中止となりました。大会延期後、感染症対策の徹底を図るため、会場を9か所から1か所に簡素化し、計4日間開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となりました。

オリンピック・パラリンピック学校連携観戦

子どもたち一人ひとりに人生の糧となるかけがえのないレガシーを残すため、オリンピック・パラリンピック競技を会場で直接観戦できる「学校連携観戦」について、世田谷区は5歳児から中学校3年生までの全校・全学年において教育課程に位置付け、準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、子どもたちの安全・安心を第一優先に考え、中止となりました。

日本の伝統文化と遊び交流会 inせたがや

世田谷区を訪れる外国人をはじめとした来訪者や在住外国人の方々に、日本古来のお手玉や、けん玉などの伝統的な遊びや着物着付けなどの日本文化の体験を通しておもてなしを行うとともに市民レベルでの国際交流を図る事業を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となりました。

東京2020大会における感染拡大防止策

連携体制の構築

東京2020大会に向け、様々な国から多くの大会関係者が入国することから、区は組織委員会や保健衛生拠点と連携しながら、新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止の対策を行いました。

準備段階では、東京2020大会開催期間中の事業の継続計画を定めるとともに、東京2020大会において留意すべき感染症に関する発生動向調査に加え、区ボランティアの体調確認を計画しました。また、多言語に対応する疫学調査ツールを用いた調査の演習を事前に行いました。

大会開催にあたり、7月1日から9月12日まで、毎日東京都と感染症発生状況を共有し、発生動向調査の強化を行うとともに、大会関係者から陽性者が出た場合は組織委員会からの連絡を受け、濃厚接触者の特定・検体の回収を行い、感染拡大防止に尽力しました。

また、アメリカ合衆国選手団の感染対策として、大蔵総合運動場の視察や、発生時の対応を取りまとめるとともに、USOPCや組織委員会、東京都、区内医療機関と連携して、検査体制や陽性時の情報連携、医療提供体制を整備しました。

具体的な対策

競技会場

・観客に対する基本的な感染防止策実施の呼び掛け及び入場時における検温実施や選手、関係者動線と観客動線の明確な区分、待機列の密集抑制策など

海外選手、スタッフ等

- ・選手の行動範囲は宿泊場所・練習会場・大会会場・事前に登録された場所のみに制限され、公共交通機関の使用を禁止し専用バス等で移動
- ・各活動場所はIDによる管理で関係者以外の出入りを制限し、消毒の徹底、飛沫対策、換気・三密回避の対策を徹底
- ・選手は選手村で毎日健康検査を実施し、選手と一定の接触のある関係者も定期的に検査実施

聖火リレー

- ・沿道の密集を避けるため、ライブ中継での観覧を推奨
- ・沿道で観覧する際、密集を避け、マスク着用のうえ、大きな声での会話や応援を控え、拍手などでの発生を伴わない応援を呼び掛け



Tokyo 2020/Ken Ishii

競技会場での感染拡大注意喚起



Tokyo 2020/Kenta Harada

大会関係者の検査の様子